

# 来訪者の意識からみた尼崎運河再生の課題

- 「尼崎運河博覧会」来訪者を対象とした意識調査の結果 -

平井 住夫

正会員 兵庫県 県土整備部 (〒650-8567 神戸市中央区下山手通5 - 10 - 1)

E-mail:sumio\_hirai@pref.hyogo.lg.jp

尼崎運河で行われたイベントの来訪者を対象に、運河・イベント・活動に関する意識を調査し、運河来訪者の運河空間の評価、運河まちづくり活動への参加意識などを分析した。住民が居住せず、工業生産優先で一般市民の来訪を遠ざけていた工業専用地域において、運河の機能を継続しつつ、地域に人を呼び込み、にぎわいを創出するには、市民・企業と行政が参画と協働のもと、運河の魅力の再発見と周知、都市施設としての運河機能の市民理解と支持獲得、運河再生活動(まちづくりと環境改善)への参加支援と拡大などの観点からの取り組みが必要である。本稿では、実施した意識調査の結果から、尼崎運河再生の課題を考察した。

*Key Words :Amagasaki Canal redevelopment, wetland and habitat restoration, industrial area, public promenade, public involvement*

## 1. はじめに

尼崎運河は、昭和初期から阪神工業地帯の中核として港湾物流と、地盤沈下によるゼロメートル地帯をまもる防災の役目を果たしてきた。平成に入り火力発電所や製鉄所の撤退に代表される工業用地の遊休化は、臨海部の工業生産基盤に少なからず影響を及ぼしつつあった。

阪神淡路大震災を経て 2002 年には、尼崎市の国道 43 号以南の臨海部 1,000ha を対象にして、緑と水のネットワークを形成し、新たな産業基盤となる環境先進都市の創造を目指す「尼崎 21 世紀の森構想」が兵庫県により策定された。

運河地域では、尼崎 21 世紀の森づくり協議会によって運河クルーズ、まちあるき、音楽フェスタ等のイベントが行われている。2008 年からは、運河を核とした魅力ある地域づくり(「21 世紀の尼崎運河再生プロジェクト」)として、運河や河川の新しい価値を見出し、運河や河川を活用した活性化を図る。人々が集まり、憩える空間を提供し、市民が水辺に近づける環境を形成する。運河を核としたイベントを通じて、企業と市民の新しい良好なコミュニケーションスタイルの形成を図る。という方針のもと、上記のにぎわいづくりや運河沿いの遊歩道・植栽整備を行ってきた。

しかしながら、来訪者はイベント開催中に限られ一過性であり、日常的な来訪者の大幅な増加には至っていな



図 - 1 尼崎運河と「うんぱく」会場

い。住民が居住せず、工業生産優先で一般市民の来訪を遠ざけていた工業専用地域における尼崎運河では、運河の魅力の再発見と周知、都市施設としての運河機能の市民理解と支持獲得、運河再生活動(まちづくりと環境改善)への参加支援と拡大などが必要であり、そのためには、まちづくりの観点から基礎的な調査・分析を重ねて、運河再生の課題を明らかにしていく必要がある。

本稿は、尼崎運河で行われたイベント「うんぱく 2011 ~ 尼崎運河博覧会」(以下「うんぱく」と呼ぶ)の来訪者を対象に、運河・イベント・活動に関する意識を調査し、運河来訪者の目をとおした運河空間の評価、運河ま

ちづくり活動への関与意識について分析し、運河再生の課題を明らかにすることを目的とする。

## 2. 「うんぱく 2011～尼崎運河博覧会」

「うんぱく」は、尼崎 21 世紀の森づくりに参画する市民・企業・団体等が協働し、尼崎臨海地域の貴重な財産である運河の魅力をもっと市民に広く知ってもらい、運河を使って楽しみ体感することをコンセプトにして行われている。2007 年から数えて 2011 年で 5 回目となる（2010 年は雨天のため中止）。

行政・市民・企業・学識者等からなる「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」を中心に、まちづくり団体等で構成する尼崎運河博覧会実行委員会が主催した。

イベントは NPO 法人「尼崎 21 世紀の森」が、尼崎 21 世紀の森づくり協議会の事務局である県から業務委託を受け、この委託費と独自財源によって実施した（実行予算はおおよそ 1,000,000 円）。そのほか多くのボランティアとともに兵庫県及び尼崎市がマンパワー等を提供した。

(1)日時：2011 年 10 月 8 日（土）11:00～17:00

(2)場所：尼崎市道意町北堀運河（図-1）

(3)開催内容（図-2）

NPO 等による運河クルージング

- ・計 9 便、20 人/便 乗船料 1,500 円/大人
- ・運河沿いに立ち並ぶ工場群を眺めるガイドクルーズ 愛好家団体による船あそび
- ・愛好家によるカヌーの漕艇や手こぎボートの体験 地元商業者によるオープンカフェ
- ・尼崎産の食材を使ったハンバーガー、カレー、ドリンク等の販売 地元ボランティアによるキッズコーナー
- ・リサイクルゴムレングで遊ぶコーナー、森のクラフトづくり、段ボール遊具等 水質浄化の取り組み紹介
- ・尼崎運河で水質浄化に取り組んでいる大学や地元の高等学校、中学校の展示ブース等 県尼でショー 運河で遊ぼう
- ・県立尼崎高等学校の生徒が吹奏楽の演奏やショーをして、子どもたちと一緒に遊ぶコーナー 地元 NPO による音楽ライブステージ
- ・地元ゆかりのミュージシャンやエンターテナーが出演

(4)参加人数：1,200 名（主催者発表）

## 3. 運河来訪者の意識調査

調査は「うんぱく」開催の 2011 年 10 月 8 日（土）11 時から 17 時、出店したオープンカフェ付近を中心に、来訪者に質問票を手渡し回答を依頼し、会場内で回収した。質問内容は、「うんぱく」に関することと運河に関することの 2 種類である。



図-2 「うんぱく」開催状況

### (1) 回答者の状況（図-3）

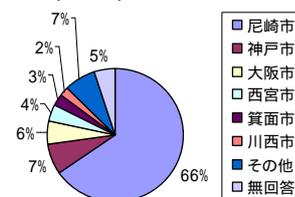
回答者は 217 名、そのうちおよそ 2/3 は尼崎市居住（141 名中、北部居住者 62 名、南部居住者 79 名）、1/3 が尼崎市外居住者（76 名）、年齢構成は 10 歳代から 60 歳代までほぼ均等、42%が企業に勤務、そのうち運河周辺企業従事者または従事経験者が 22%、そのほか専業主婦が 20%、学生が 12%を占めた。

来訪者の構成は、2/3 が親子や友達連れなど複数での来訪、単独来訪者は 1/3 程度であった。

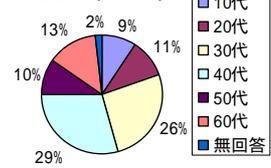
### (2) 「うんぱく」来訪目的（図-4）

目当てのプログラムに参加が 27%あったが、それよりもみんなと楽しく過ごす、運河や周辺の様子を見にくるなど参加者間の交流に期待した人の方が多く、半数近くを占めた。

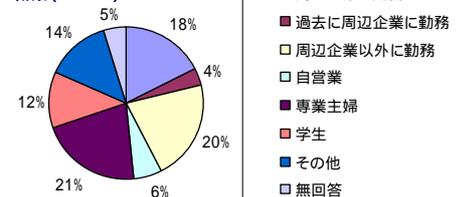
居住地 (n=217)



年齢構成 (n=217)



職業 (n=217)



来訪者構成 (n=217)

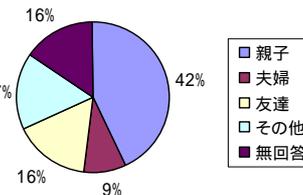


図-3 回答者の属性

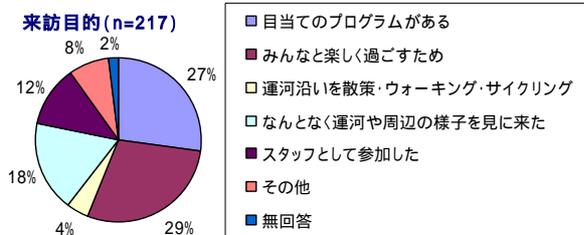


図-4 運河来訪の目的

### (3) 「うんぱく」のプログラム参加状況

うんぱく来訪者がどのプログラムに参加したか、各プログラムに参加した人の割合を図-5に示す。特典参加が多かったり、少なかったプログラムはなかった。半数近い人が、休憩や飲食のためにオープンカフェを利用している。

また運河クルーズは人気が高く、全便ほぼ満席であった。

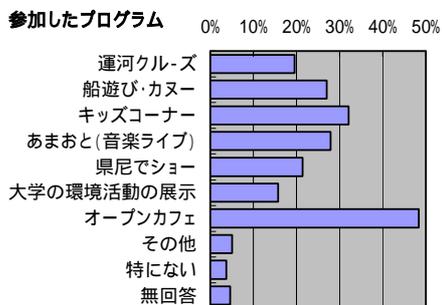


図-5 参加した「うんぱく」のプログラム

### (4) 再来訪の意向 (図-6)

運河地域への再来訪の意向を訊ねたところ、人に誘われればまた来るという消極的な人も含めると、ほとんどの人が「うんぱく」にまた来たいと回答しているが、「うんぱく」などのイベントがなくても訪れる意向を持つ人は23%にとどまっている。

回答者のうち、初来訪者と既来訪者で再来訪の意思を比較すると、初来訪者が再来訪に消極的なのに対し、既

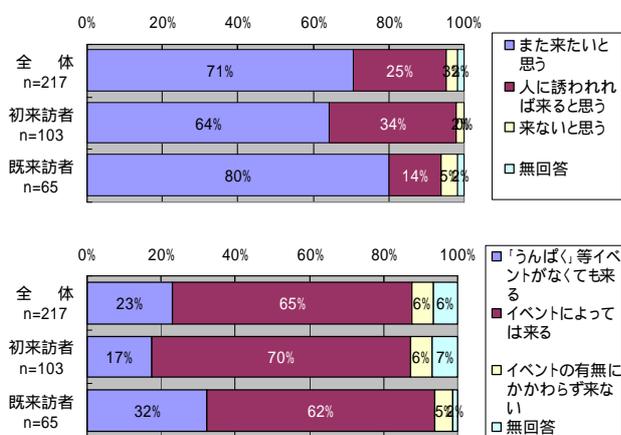


図-6 運河への再来訪の意向

来訪者の方が「うんぱく」にまた来たい、イベントがなくても訪れたいと回答した人の割合が多く、再来訪には積極的な傾向がある。

### (5) 運河の認知度・来訪履歴

#### a) 認知度 (図-7)

尼崎運河の認知度について、無回答を除く168名のうち、35%が「よく知っている」または「いくらかは知っている」、65%が「あまり知らない」または「全く知らない」と回答、イベントの参加者であっても運河の認知度は高くない。

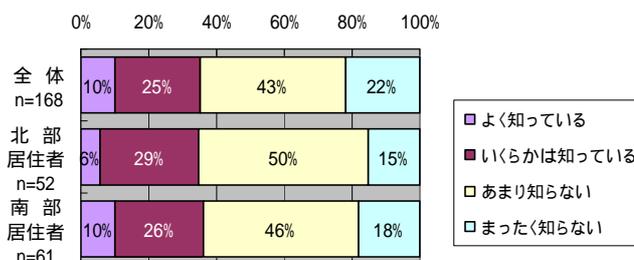


図-7 尼崎運河の認知度

さらに回答者のうち、尼崎市在住者113名(尼崎市北部居住者52名、南部居住者61名)の認知度を比較した。

北部と南部で、運河を「よく知っている」または「いくらか知っている」と答えた人の割合はほぼ同じ、「あまり知らない」または「全く知らない」と答えた人の割合もほとんど同じであり、運河来訪者においては、認知度に差は認められなかった。

#### b) 来訪履歴 (図-8)

無回答者を除く168名のうち、初めての来訪者が6割、1年以内と1年以上を合わせて過去に来たことがある人が4割いた。

このうち、尼崎市北部居住者では、初めて来訪した人は7割を越えた。逆に、尼崎南部居住者では、1年以内と1年以上を合わせて過去に来たことがある人が、54%であり、北部居住者の割合26%の2倍を占めた。

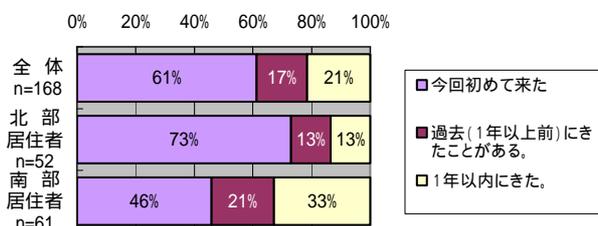


図-8 尼崎運河への来訪履歴

### (6) 運河の魅力と期待する機能

#### a) 運河に感じる魅力 (図-9)

運河の有するオープンスペースの観点、交流の場の観点、自然環境や社会文化の観点を例示して、魅力として感じる項目を複数選択してもらった。

まず総じて、開放的でイベントスペースのある空間に

魅力を感じていることがわかる。

尼崎北部居住者と尼崎南部居住者を比較すると、北部居住者の方が「水と親しめる空間」や「工場や船舶が荷役する風景」に魅力を感じている人が多い。

さらに尼崎北部居住者のうち、初めて来訪した人 38 名を見てみると、表-1 に示すように、この魅力を選択した人の割合はそれぞれ 39%、32%であり、全体平均の 1.5 倍、2 倍の高い割合を示した。これは、来訪者が初めて見る運河特有の空間や景観に対して、特に新鮮な印象を抱いたものと考えられる。

また運河の周辺企業に勤めている人または勤めていた人（以下「周辺企業従事者」と呼ぶ）は、運河にノスタルジーを感じているとともに、運河再生の活動をする人にも関心を寄せている。

尼崎運河に感じる魅力

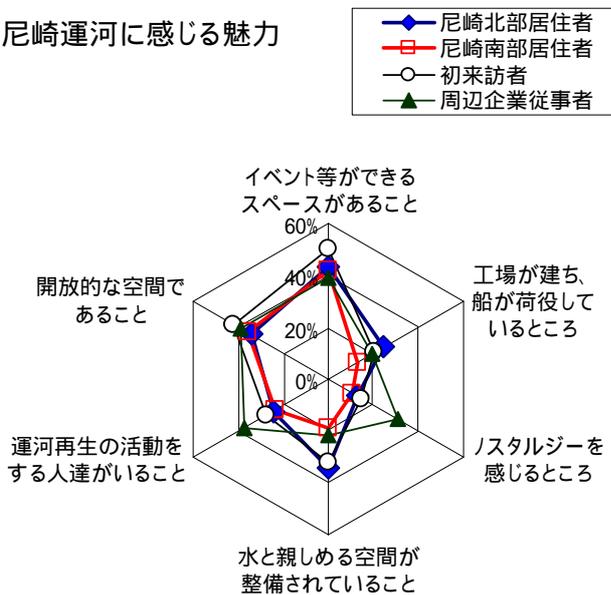


図 - 9 尼崎運河に感じる魅力

表 - 1 初来訪者が運河の魅力を選択した割合の比較

運河の魅力	北部居住者のうち初来訪者 38名	全初来訪者 103名	全体 215名
水と親しめる空間	15名 39%	33名 32%	56名 26%
工場や船舶の風景	12名 32%	21名 20%	35名 16%

b) 運河に期待する機能 (図-10)

尼崎運河のどのような機能に期待しているか、利用機能、防災機能、文化観光資源機能、景観形成機能、環境保全機能、物流産業機能といった機能を例示して、来訪者が期待する機能を複数選択してもらった。

前項の来訪者の魅力評価にあるように、開放的なレクリエーション空間としての魅力に対応して、散策や船遊びなどの場としての利用機能を高く評価している。特に尼崎北部居住者は、環境学習や環境活動の場としての機能にも期待し、また周辺企業従事者は、運河の利用機能

に対する期待は比較的低いが、前項で示したように、ノスタルジックな魅力と対応して、工場と水路の景観形成機能には期待が高い。

しかし一般的に、まちを浸水から守っている防災機能や文化観光資源機能、工場と水路の景観形成機能、環境保全機能、物流産業機能は期待が低い。なかでも、運河の防災機能の恩恵を享受しているはずの南部居住者においても、それを期待する割合は高くなかった。

尼崎運河への期待

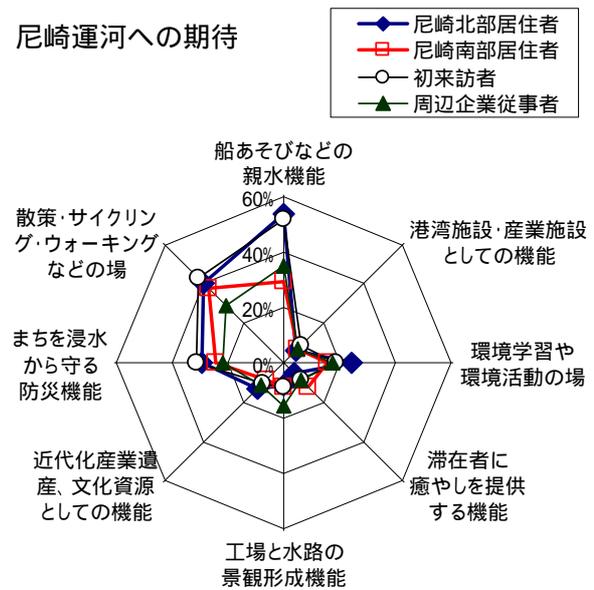


図 - 10 尼崎運河に期待する機能

(7) 市民活動による運河再生について

a) 運河再生活動への参加意向 (図-11)

運河の魅力を再発見したり、水質を改善して、来訪者を増やし、地域を活性化させるための活動に対して、参加する意思や活動に対する賛同の程度を訊ねた。

約 1 割が「すでに参加している」、「今後参加するつもり」と活動に積極的に参加する意思を表明、2 割が運河へのアクセスがよければ参加したいと回答している。

これは、最寄の阪神電車「尼崎センタープール前駅」から運河まで、徒歩で 15 分以上要するにもかかわらず、周辺に一般の駐車場やレンタサイクルなどもない。また路線バスも工場通勤対応の運行本数、運行系統となっており、休日や昼間の来訪には不便であることが背景にあると考えられる。

尼崎南部居住者にとっては、徒歩もしくは自転車であれば、アクセスにさほど苦になる距離 (2km から 5km 程度) ではないが、北部居住者にとっては、この点が運河来訪のハードルの一つとなっているといえる。

一方、「活動はできないが活動の応援をしたい」と回答した人の割合を見ると、初来訪者は、半数近くがその意思を示すなど、運河再生活動に好印象を抱いており、

無回答の割合も 4%と他に比べて圧倒的に低い。

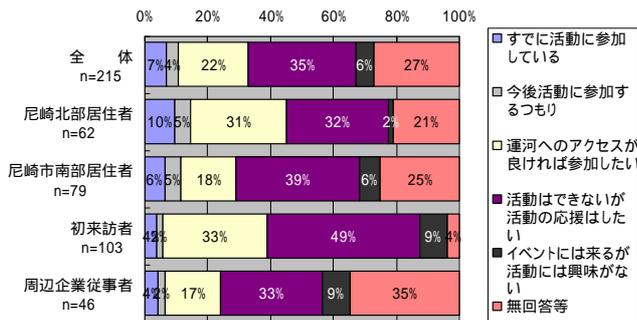


図 - 11 尼崎運河再生活動への参加意向

b) 運河再生活動に必要なこと (図-12)

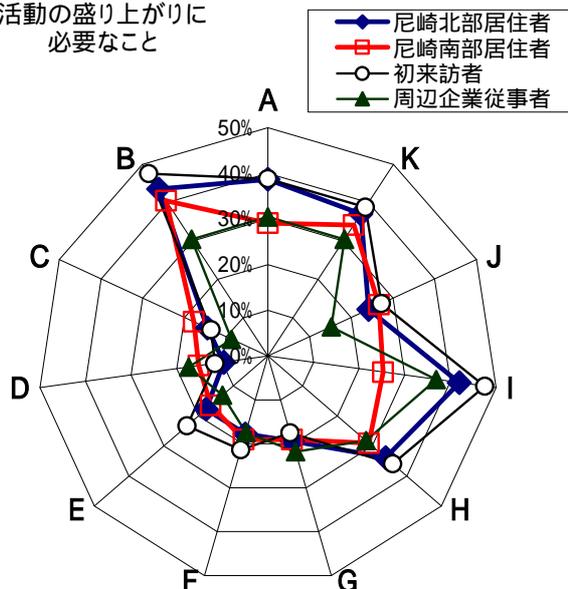
運河再生活動がさらに盛り上がるための必要条件について訊ねた。

まず全体の 4 割の人が、飲食や休憩ができる場所が必要と回答。運河再生の活動者や来訪者に何らかの休憩場所を提供することは必要条件といえる。

その他 3 割を越える人が、生物がふえるなど運河の自然再生、運河地域の環境美化、運河再生活動の情報提供が必要と回答した。

なお、尼崎南部居住者及び周辺企業従事者は、運河再生活動にアクセス性の向上が必要との回答は少なかった。これは、南部地域居住者や周辺企業勤務者は、日常的に運河に接する位置関係にあり、容易に来訪できるため、アクセス性の良し悪しを、運河再生活動盛り上がりの要件とは捉えていないと考えられる。

活動の盛り上がりに必要なこと



- A 運河再生活動に関する詳しい情報提供
- B 活動者が休憩できる施設 (飲食店・トイレ)
- C 活動者が集まり情報交換する場
- D 活動参加者を引っ張っていくリーダー
- E 活動に対する補助や助成など行政の支援
- F 運河沿いの企業の参加
- G 周辺の治安維持や施設の安全性の確保
- H 環境美化 (ごみの除去、植栽の手入れ等)
- I 運河へのアクセス性の向上
- J 周辺の空気や水がもっときれいになること
- K 運河に魚や鳥が増えること

図 - 12 運河再生活動の盛り上がりに必要なこと

4. まとめと今後の課題

(1) 意識調査の結果

a) 「うんぱく」に対する意識行動

- ・来訪者は、特定のプログラム目当ての人よりも、なんとなく参加者との交流を期待する人が多く、半数近くの来訪者がオープンカフェを休憩場所として利用した。
- ・ほとんど全員が「うんぱく」にまた参加したいと回答したが、イベントの有無にかかわらず再来訪したい意向は初来訪者より既来訪者の方が強い。

b) 運河に感じる魅力と期待する機能

- ・イベント利用空間、開放的な空間としての魅力を強く感じ、対応して、交流レクリエーションの場としての機能、親水機能、散策の場といった利用機能に高い期待を寄せている。
- ・しかしながら、運河の防災機能、産業施設・文化資源としての機能、景観形成機能への期待には至っていない。

c) 運河再生活動への参加意向と評価

- ・全体の 1 割が何らかの参加の意向を持つ。2 割が運河

へのアクセスが良くなれば参加するとした。

- ・しかし尼崎市南部居住者や周辺企業従事者には、アクセスの良否を自分自身の活動参加の要件とした人の割合は低かった。
- ・運河再生活動の盛り上がりには、総じて休憩施設の整備、活動の情報提供、アクセス性の向上 (尼崎南部居住者を除く)、運河の自然環境の再生が必要と回答している。
- d) 回答者の属性による運河評価の傾向
  - ・尼崎市北部居住者は、尼崎運河の認知度が低いと思われていたが、南部居住者に比べて極端に低いことはなく、親水空間や工場・船舶など運河特有の景観に魅力を感じつつ、このような場としての機能に加えて、環境学習の場としての機能にも期待を寄せている。
  - ・初来訪者は既来訪者に比べて、運河特有の水辺空間や工場景観等に関心を示す度合いが高く、運河再生活動への参加意向度も高い。
  - ・企業企業従事者 (運河の周辺企業に勤めている人または勤めていた人) は、運河にノスタルジーを感じたり、運河再生活動者に関心を示すなど、一般市民とは異なる意識を有していた。

## (2) 今後の課題

工業専用地域にある尼崎運河は、これまで一般市民の目に入る存在ではなかったため、その存在は知っていても、イメージとして感じたり、機能を評価する機会すらなかった。

今回、「うんぱく」というイベント時の来訪者を対象に、来訪者の尼崎運河そのものに対する評価に照準をあてて調査を行った。その結果、イベント参加者という調査対象であっても、来訪経験の有無、居住地、運河周辺企業の勤務経験など来訪者の属性によって、運河に対する評価が多様であることが分かった。

また、運河に感じる魅力や期待する機能の評価から、イベントの開催は、人を運河に出向かせて、運河の空間・景観を認識させるきっかけにはなるものの、防災、産業、文化資源としての機能を認識し、運河の魅力資源としての理解や評価には容易につながっていないことも、明らかになった。

運河来訪のきっかけは、イベント参加に限らない。近隣居住者による散歩など日常生活の一環としての来訪、地先工場勤務者の来訪、市民と教育機関による水環境改善活動の参加としての来訪、小中学校の社会学習としての来訪など様々な来訪形態が、尼崎運河の特色である。

これらも踏まえると、今後の尼崎運河再生には、

尼崎市南部居住者や周辺企業従事者には、日常的な運河とのかかわりの中で、運河の有する機能と享受

している運河の恩恵を分かりやすく解説し、理解を深めてもらうこと。

尼崎市北部居住者などさらに広い範囲の居住者に対して、運河をもっと知ってもらうためのPRとイベント参加、学習・教育の機会を提供すること。

住民のいない当地域では、運河再生活動の担い手が不足しているため、隣接する南部居住者や周辺企業従事者から、担い手を幅広く集める仕組みを構築すること、

が必要であり、まちづくりの視点でどのように取り組んでいくかが今後の研究課題である。

謝辞：アンケート調査の作成・実施・集計にあたっては、兵庫県尼崎港管理事務所の加納恵子（当時）、井出正子（当時）、株式会社アスコ都市整備事業部の中村昇、井倉雅子各氏の協力を得た。ここに謝意を表します。

付録：尼崎市では、武庫地区、立花地区、園田地区を北部地域、中央地区、小田地区、大庄地区を南部地域としている。